

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度 (和暦) (西暦)	28 年度	②採択期間 (通常A型は5年以 内、B型は3年以 内)	5 年間 (1年未満は 切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入)	A型 型
④日本側拠点機関名 (和文)	京都大学大学院医学研究科				
⑤研究交流課題名 (和文)	ビッグデータ解析による診断・治療法開発の国際共同研究ネットワーク				
⑥課題番号	JPJSCCA20160007				
⑦コーディネーター所属部局名・ 職名・氏名 (和文)	医学研究科・教授・武田 俊一				
⑧日本側協力機関名 (和文) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)					
京都大学大学院薬学研究科					
京都大学大学院情報学研究科					
国立研究開発法人 理化学研究所					

⑨参加研究者数内訳 (様式12 参加研究者リスト に準じてください。重複カ ウントしないこと。)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	参加資格の ない者 (⑩に内訳をご記入くださ い。手引き2-4参照。)	合計	第三国所属の研究者 (内数) (⑪に内訳をご記入くださ い。)
拠点機関	5	16	0	16	0	37	0
協力機関・協力研究者	3	9	2	9	0	23	0
合計	8	25	2	25	0	60	0
⑩手引2-4記載の参加資格のない者の内訳 (適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
所属・職	専門分野		研究交流での役割				
該当なし							
⑪「第三国所属の研究者」内訳 (平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット		日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法			
該当なし							

2. 経費

事業の型 A型 型		
①当該年度の本事業による経費の支出		
経費内訳	金 額 (単位：円)	備 考
研究 交 流 経 費	国内旅費※1	0
	外国旅費※1	0
	謝金	0
	備品・消耗品購入費	7,056,214
	その他経費	4,735,749
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	268,037
	計	12,060,000
業務委託手数料		1,206,000
合計		13,266,000
研究交流経費の10%（1円未満切捨）。消費税額は内額とする。		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税（免税）の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費（総額）の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）。

新型コロナウイルス感染の流行のため、海外との行き来ができなかったため、旅費を国内での消耗品費にあてた。

③ 日本側参加研究者の旅費による	日本側参加研究者のうち、 所屬機関が日本である者の旅費の総額（単位：千円）		0		
	日本側参加研究者のうち、 所屬機関が日本以外である者の旅費の総額（単位：千円）		日本→日本以外の渡航	0	
			日本以外→日本の渡航	0	
			日本以外→日本以外の渡航	0	
④ （相手国側参加研究者の旅費の総額） （単位：千円） （千円未満切捨て）	日本または相手国 →日本の渡航	該当なし	（左記のうち、第三国所属の相手国側参加研究者の旅費の総額） （単位：千円） （千円未満切捨て）	日本または相手国 →日本の渡航	
	日本又は相手国 →相手国の渡航			日本又は相手国 →相手国の渡航	
	日本または相手国 →第三国の渡航			日本または相手国 →第三国の渡航	
	第三国→ 日本の渡航			第三国→ 日本の渡航	
	第三国→ 相手国の渡航			第三国→ 相手国の渡航	
	第三国→ 第三国の渡航			第三国→ 第三国の渡航	

※旅費は、往復の金額で記載すること（例：第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載）。

經由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤（B型で平成31年度以前の採択課題のみ）中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合（交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

総額（単位：千円）	手引2－6記載の要件を満たす旨の事由説明
該当なし	

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)（単位：千円、千円未満切捨て）

全相手国のマッチングファンド総額 （1年間の金額）	マッチングファンドのある相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均額 （1年間の金額）
12,317	9	1,368

3. 共同研究・セミナー

事業の型		A型	型					
①共同研究（適宜、行を加除すること。）				現在の年度に○を付けること→				
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	相手国	1年目 実施年度に ○を付ける ↓	2年目 実施年度に ○を付ける ↓	3年目 実施年度に ○を付ける ↓	A型のみ		
			4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓				
R 1	発がん原因の解析を目的としたゲノム研究	スウェーデン、米国、フランス、イタリア	○	○	○	○	○	
R 2	ケモインフォマティクス	スイス、ドイツ、米国	○	○	○	○	○	
R 3	遺伝薬理学的手法によるビッグデータの取得とその解析	米国、英国、フランス、イタリア	○	○	○	○	○	
R 4	診断および治療に必要な医療情報学	カナダ、米国、英国	○	○	○	○	○	
R 5	医療情報の管理・解析	米国、カナダ	○	○	○	○	○	
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引5-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）								
R1 共同研究R-1の日本側代表者（1-15）がスウェーデン側のコーディネーターと月に一度カロリンスカ研究所と京都大学の関係者でオンライン会議を実施しながら、共同研究を進めた。この共同研究は、骨髄異形成症候群の病態の解明・新規治療の開発に貢献する。 日本側コーディネーター（1-1）がBRCA2遺伝子の変異と乳がん・卵巣がんの発症との関連性を解明する研究を遂行するために、当該研究経費にてオランダがんセンター（NKI）でBRCA2条件変異マウスの維持と実験、乳腺組織標本の作製を外注した。BRCA2条件変異マウスを保有しているのは、世界的に見てもこのNKIのみであることから、この研究機関に依頼をした。 米国参加研究者（2-24）との共同研究を行い、論文をNucleic Acids Resに発表した。 R2 共同研究R-2の日本側代表者（1-26）は、スイスETH Zurichの研究グループとオンライン会議を実施しながら能動的計算創薬（AIを用いる大規模予測性能評価実験）を実施した。発表データを用意できたが、スイスの事情（COVID19によりラボ閉鎖）共同執筆が大幅に遅れている。COVID19の為、ドイツのボン大学との共催シンポジウムを中止した。 共同研究R-2の日本側代表者（1-26）は、ペーリingerインゲルハイム（ドイツ）の研究職を得て、2020年度に異動した。ただし京大癌免疫研究センターの客員教員を2021年度以降も兼務し、計算創薬分野において京大の国際共同研究体制構築に貢献している。 R3 共同研究R-3の日本側代表者かつ日本側コーディネーター（1-1）は、米国参加研究者（2-1, 2-31）と共同研究を実施し、PNAS USA 2020とPLoS One 2020に論文発表した。 PNAS USA 2020の筆頭著者は、日本側コーディネーター（1-1）の元院生が米国側コーディネーター（2-1）においてポスドクとして雇用された。現在、日本側コーディネーターは、このポスドクを介して米国側コーディネーターと統報の論文を準備中である。この共同研究は、シスプラチンの腎毒性の作用機序解明と治療法開発に貢献する。日本側コーディネーターは、2021年度に中国・深圳大学に教授として異動し、癌研究分野において京大と深圳大学との間の国際共同研究ネットワークを樹立する。 R4 日本側参加研究者（1-11）は、オーストラリア側参加研究者（教授）のラボに大学院生を2019年度に派遣した。その時に作ったパーキンソン病のヒト脳組織の顕微鏡解析がほぼ終了し、論文を共同執筆中である。 日本側参加研究者（1-21, 1-20）は、英国との共同研究の成果（リアノジン 受容体タイプ3がニューロンでの後過分極電流に関与）をPLoS Oneに、米国との共同研究の成果（リアノジン 受容体タイプ2とFKBP12.6複合体が肺高血圧症を抑制）をNature Commun.に論文発表した。 R5 日本側参加者（1-27）はEmory大学との共同研究により、プライバシー選好とデータの有用性のトレードオフを柔軟に指定できるプライバシー保護技術であるPGLP(Policy Graph based Location Privacy)と呼ばれる新しい位置情報プライバシーモデルを提案した。また、GLPがCOVID-19に対するプライバシー保護型の疫病解析と接触者追跡の応用に望ましいプライバシーと有用性のトレードオフを達することを示した。								

②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）

セミナー	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地（国名・都市名・会場）	開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日曜））
S 1	日本学術振興会・研究拠点形成事業 BRCA1とBRCA2のG1乳がん細胞での機能解析	JSPS Core-to-Core Program Functional Analysis of BRCA1 and BRCA2 in G1 Breast Cancer Cells	米国	開催なし
S 2	日本学術振興会・研究拠点形成事業 BRCA2欠損が乳がん、卵巣がん、前立腺がんを発症させる機序の解明	JSPS Core-to-Core Program Elucidation of the Mechanism by which BRCA2 Deficiency Causes Breast Cancer, Ovarian Cancer, and Prostate Cancer.	米国	開催なし
S 3	日本学術振興会・研究拠点形成事業 計算ケミカルバイロジのワークショップ	JSPS Core-to-Core Program Workshop for Cpmputational Chemical Biology	日本	開催なし
S 4	日本学術振興会・研究拠点形成事業 計算ケミカルバイロジの基礎	JSPS Core-to-Core Program Basics of Computational Chemical Biology	日本	開催なし
セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引5-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）				
新型コロナウイルスの感染流行のため、S1,S2については米国への渡航ができなかったため、開催することができなかった。S3,S4についても同様の理由でドイツからの研究者の来日が不可能となり、開催することができなかった。				

③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況 (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7 参照のこと。)
該当なし
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引3-4 (1) ①参照のこと。)
該当なし

4. 研究交流状況

事業の型 A型 型								
①日本→海外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除すること。）								
国名（派遣先） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1	該当なし						0	
計		0	0	0	0	0	0	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引3－4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2－6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
該当なし								

②海外→日本の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
国名（派遣元） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1	該当なし						0	
計		0	0	0	0	0	0	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引3～4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2～6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
該当なし								

③日本以外→日本以外の渡航数（本事業経費による渡航）（①、②の合計数の半数以下とすること。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）									
国名（派遣元）		国名（派遣先）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2－4記載の 参加資格のない 者・その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1	該当なし							0	
計			0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引3－4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2－6記載の要件も）満たす旨の事由説明（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）									
該当なし									

④海外→日本の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣元）		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1	該当なし						0
計		0	0	0	0	0	0

⑤日本→海外の渡航数（相手国経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣先）		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2－4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1	該当なし						0
計		0	0	0	0	0	0

5. 交流相手国

事業の型 A型 型	
①相手国名（和文）	米国
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：国立衛生研究所／国立がん研究所 英文：National Institute of Health / National Cancer Institute	
③コーディネーター所属 局名・職名・氏名 （英文）	Laboratory of Molecular Pharmacology, Chief, Yves POMMIER
④協力機関名（和文および英文）（1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
和文：ハーバード大学医学大学院 英文：Harvard Medical School	
和文：オハイオ州立大学 英文：Ohio State University	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	3	0	1	0	0	4	
協力機関・協力研究者	21	5	3	1	0	30	
合計	24	5	4	1	0	34	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。）（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）			※参考： 日本側研究交流経費 12,060		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	National Institutes of Health	NIH Yearly Budget				
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	－						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	－						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	－						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	－						
(5)相手国側研究者の研究経費	◎			5,550	2021/4/5	USドル	111
(6)相手国開催のセミナー開催経費	－						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	－	合計		5,550			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金は相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金（基盤的経費を含む）をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型 型	
①相手国名（和文）	ドイツ
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：ボン大学 英文：The University of Bonn	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名（英文）	Life Science Informatics, Professor, Jurgen BAJORARH
④協力機関名（和文および英文）（1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	1	0	1	0	0	2	
協力機関・協力研究者	3	0	0	0	0	3	
合計	4	0	1	0	0	5	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。）（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）			※参考： 日本側研究交流経費		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート（外貨1単位に相当する円貨額）
A型のみ:パターン1か2を記入すること	1	Government of the North Rhine	Improvement of Teaching		2021/4/5	ユーロ	130
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	－						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	－						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	－						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	－						
(5)相手国側研究者の研究経費	◎			494	2021/4/5	ユーロ	130
(6)相手国開催のセミナー開催経費	－						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	－	合計		494			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金（基盤的経費を含む）をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型 型	
①相手国名（和文）	イタリア
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：分子腫瘍学財団研究所 英文：FIRC Institute of Molecular Oncology Foundation	
③コーディネーター所属 部局名・職名・氏名 （英文）	Biosciences, Professor, Marco FOIANI
④協力機関名（和文および英文）（1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	3	0	2	0	0	5	
協力機関・協力研究者	1	0	0	0	0	1	
合計	4	0	2	0	0	6	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。）（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）			※参考： 日本側研究交流経費 12,060		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	FIRC Institute of Molecular Oncology	IFOM ASIA				
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	－						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	－						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	－						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	－						
(5)相手国側研究者の研究経費	－						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	－						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	－	合計		0			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金（基盤的経費を含む）をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型 型	
①相手国名 (和文)	英国
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：MRC分子生物学研究所 英文：MRC, Laboratory of Molecular Biology	
③コーディネーター所属局名・職名・氏名 (英文)	Division of Protein and Nucleic Acid Chemistry, Principle Investigator, Julian SALE
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：サセックス大学 英文：University of Sussex	
和文：ケンブリッジ大学 英文：University of Cambridge	
和文：オックスフォード大学 英文：Oxford University	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)							第三国所属の研究者（内数）
教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計		
拠点機関	1	0	1	0	0	2	
協力機関・協力研究者	8	0	1	0	0	9	
合計	9	0	2	0	0	11	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。）（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考： 日本側研究交流経費 12,060			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	MRC Laboratory of Molecular Biology	MRC Core Grant				
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	－						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	－						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	－						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	－						
(5)相手国側研究者の研究経費	－						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	－						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	－	合計		0			

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできます。

5. 交流相手国

事業の型 A型 型	
①相手国名（和文）	カナダ
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：プリティッシュコロンビア大学 英文：The University of British Columbia	
③コーディネーター所属 部署局名・職名・氏名 （英文）	Department of Cellular and Physiological Sciences, Professor, Timothy KIEFFER
④協力機関名（和文および英文）（1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
和文：カルガリー大学 英文：The University of Calgary	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	1	0	1	0	0	2	
協力機関・協力研究者	3	1	0	0	0	4	
合計	4	1	1	0	0	6	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）		研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。）（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由			
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）						※参考： 日本側研究交流経費 12,060	
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）		
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Canadian Institutes of Health Research	Canadian Institutes of Health Research Program						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	－								
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	－								
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	－								
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	－								
(5)相手国側研究者の研究経費	－								
(6)相手国開催のセミナー開催経費	－								
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	－	合計		0					

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金（基盤的経費を含む）をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型 型	
①相手国名（和文）	スイス
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：スイス連邦工科大学チューリッヒ校 英文：ETH Zurich	
③コーディネーター所属 部署局名・職名・氏名 （英文）	Department of Chemistry and Applied Biosciences, Professor, Gisbert SCHNEIDER
④協力機関名（和文および英文）（1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	1	0	1	1	0	3	
協力機関・協力研究者	3	0	0	0	0	3	
合計	4	0	1	1	0	6	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）		研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。）（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由			
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(＝相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）		※参考： 日本側研究交流経費		12,060	
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1 単位に 相当する円貨額）
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Swiss National Federation	General Call for Advanced Research Proposals		2021/4/5	スイスフラン	117
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	－						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	－						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	－						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	－						
(5)相手国側研究者の研究経費	◎			293	2021/4/5	スイスフラン	117
(6)相手国開催のセミナー開催経費	－						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	－	合計		293			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金（基盤的経費を含む）をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型 型	
①相手国名（和文）	フランス
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：国立科学研究センター人類遺伝学研究所 英文：Institute of Human Genetics, CNRS	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名（英文）	Department of Genome Dynamics, Group Leader, Bernard DE MASSY
④協力機関名（和文および英文）（1機関ごとに行を適宜加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	2	0	1	0	0	3	
協力機関・協力研究者	4	0	0	0	0	4	
合計	6	0	1	0	0	7	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加減すること。）							
所属・職名（専門分野）		研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。）（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由			
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）				※参考： 日本側研究交流経費		12,060
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	CNRS	研究所から配分される研究 資金					
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	－							
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	－							
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	－							
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	－							
(5)相手国側研究者の研究経費	－							
(6)相手国開催のセミナー開催経費	－							
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	－	合計		0				

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金（基盤的経費を含む）をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型 型	
①相手国名（和文）	スウェーデン
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：カロリンスカ研究所 英文：Karolinska Institute	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名（英文）	Hematology, Professor, Eva Hellstrom LINDBERG
④協力機関名（和文および英文）（1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	2	0	0	0	0	2	
協力機関・協力研究者	1	0	0	0	0	1	
合計	3	0	0	0	0	3	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）		研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。）（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由			
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）						※参考： 日本側研究交流経費 12,060	
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート（外貨1単位に相当する円貨額）		
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Wallenberg Grant	Characterization, Surveillance and Targeting of Cancer Stem Cells		2021/4/5	スウェーデン シクロネ	13		
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	－								
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	－								
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	－								
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	－								
(5)相手国側研究者の研究経費	◎			5,980	2021/4/5	スウェーデン シクロネ	13		
(6)相手国開催のセミナー開催経費	－								
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	－	合計		5,980					

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金（基盤的経費を含む）をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A型 型	
①相手国名（和文）	スペイン
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：アンダルシア分子生物学・再生医学センター 英文：Centro Andaluz de Biología Molecular & Medicina Regenerativa (CABIMER)	
③コーディネーター所属局名・職名・氏名（英文）	Genome Biology, Group Leader, Felipe Cortes LEDESMA
④協力機関名（和文および英文）（1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	1	0	0	0	2	3	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	1	0	0	0	2	3	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）				
CABIMER, Genome Biology, Technician (DNA Damage Response)							
CABIMER, Genome Biology, Technician (DNA Damage Response)							
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。）（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）			※参考： 日本側研究交流経費		
					12,060		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート（外貨1単位に相当する円貨額）
A型のみ、パターン種別 パターン1か2を記入すること	1	Spanish Government	Programa Estatal de I+D+I Orientada a Retos de la				
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	－						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	－						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	－						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	－						
(5)相手国側研究者の研究経費	－						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	－						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）	－	合計		0			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金は相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金（基盤的経費を含む）をマッチングファンドとして扱うことはできません。